WASON
HQ
1104
J74+

Jan 23
1888
No 115

廿一年六月（版權所有）廿三日發兌

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢 府内無稅 郵稅一錢 毎土曜出版

第百拾五號

社説

男女交際論（第四）情交の効益

論説

日本現今之婦人（伊勢時雄）

批評

藪の鶯〇泰西奇談〇〇婦人の奬勵と改良〇〇女學の解と經濟輿論兩記者〇近時の女學論

叢話

先の母に謝す〇前夫人を懷ふ〇空氣の説（長與專齋）〇駒樣は驕然たり

小説

小説神髓

佳傳

メレー、ライヲン女史の傳

小供談

盲人の物語

新報

女の雜誌愈よ盛ならんとす〇外二十件

外報

女醫の收入〇外六件

詳和堂中川昇刻

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 115. June 23rd, 1888.

EDITORIAL:— On Social Intercourse: No. IV., Social Intercourse Developes Individual Characters.

LEADING ARTICLES:— Women of the Present Age, by Rev. Mr. T. Ise.

CRITICAL NOTES:— "Yabu-Uguisu" (A novel); "Tai-ei-Bidan" (Abstract of Taming of the Catherine); Encouragement or Improvement of Women & "the Keizai-Zasshi" & "the "Yoron-Shinshi"; "Jogaku" the Study of Women; "Kokumin-no-Tomo" On "The Influence of Women in Society"; Dr. Hatoyama & "A Word to Ladies": "Yomiurishimbun" on "Womanly Beauty" & "Poligamy"; Criticisms on Four Woman's Magazines.

MISCELLANIES:— Michelet's Tribute to his Mother; John Stuart Mill to his Wife's Memory; on Air, by Mr. S. Choyo: Behold! The Arrogance of our Liege—Lords.

NOVELS:— Bouquet of Novels.

BIOGRAPHIES:— Mary Lion.

CHILDREN'S COLUMN.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

一冊枚數七十葉二十錢全國無郵税半年前金一圓一年前金二圓也

左の第十卷此度發兌せり以後每月切度十五日發兌

通信女學 第十卷發兌

此度の號より大ひに改頁を加へたる所ろあり諒焉

今度所々の婦人會の教科書に用ひられたり尚廣く購讀を乞ふ

女學雜誌社

●珊瑚の珠（第七十回）

○ロングフエロー曰く安息日は猶ほ黃金の止め針の如し一週間の書籍を共に綴ぢ合はすもの也。

○バイロン曰く言語は亦是れ實躰なり墨汁の一滴は露の如くに思想の上に落ちて數千萬人の思考を促がす所ろの源となる。

○カーライル曰く願くは吾れに働らいて而して歌ふの人を與へよ。

○ホルムス曰く罪惡には種々の器具あり然れども詐僞は其の何れにも適合すべき執柄と成る。

○スペンサー曰く一の德敎去つて未だ之に代ふべき新たある德敎起らざる時ほど社會の有樣の危險なるはあらず。

○馬琴曰く隨緣隨喜の乾芋莖法座のほとりへ間近く寄つて今説き起すを聽聞せよ夫れ煩惱とは智度論にろの心から煩はしくおもひなやむの故に名とす婬に屬より瞋にかたより癡に屬よるこれ煩惱その數八萬四千あり痛ましひ哉一切衆生に八萬四千の塵勞煩惱遂ゞ苦海に沈みては井戸へ墮せし簪同樣わがらんとすれど浮む瀬なし世尊これを憐れみて其の煩惱の根だやしせんとて（鶏采、南無阿彌陀佛。付、以下次號）

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百拾五號　明治二十一年六月廿三日發兌

社説

○男女交際論（第四）。

其効益、

人間は是非とも交際せねば成らぬものなり、而して殊に異性の男女は、中にも其尤も相ひ交際せねば成らぬものなり、之に順ふは即はち自然に順がふものにて、之に逆らふは即ち自然に逆ふものなり（以上第二回大意）。因て其の自然に順がつて、男女互ひに相ひ交際する、之を情交の交わりと云ふ、情交盛んになれば、肉交に僻するの弊自づから減じ、男女の間柄、自然に清潔に趣むくべし（以上第三回大意）。然るに、男女の交際は、啻に此等の効益あるが為めを以てのみ、必用あるにあらず、更らに人間徳性の發達に於て、社會の習慣中決して一日だも之を欠く可らざるの大必要あり、之を男女兩性の美質發育に於ての、男女交際の効益と云ふ。故に其の効益の第三に云く、

（三）、「男女交際は男女の美質を發育す」と云ふ事。

近世學者仲間に大流行する、進化論と云へるものあり。之は萬法萬物悉ごとく進み化するとの理を申すものにて、今日現に目に見る所ろの山川草木、魚介禽獸、及び吾々人類自身と云へども、又た此の人類が作つたる政府法律道徳と云へども、皆なことごとく進化し來つたるまて、尚ほ是れより幾億萬年の間だ絶へず進化し去つて止まずと云ふなり。然るに、此の進化論たる、未だ左程に確定したる議論にあらず、又其の現在の證跡に至ては未だ十分の事實あるにあらず、今の日本の一種の學者達が申すほどには、未だ完全したる理論にはあらずと云へども、左らばとて、凡ての物が簡單より複雜に進み、放粗より精細に入り、恰たかも文章軌範の規則の如くに、段々と精密精緻の界ひに進化するの理は、既でに殆んど明白の事實と為りたり。此に於て乎云く、男女はもと一躰なりき、人類創造の初にはアダムイーブと云へる一人の人ありたり、即はち其れ俊傳兵衛と云へる合躰の一人間ありたり、然るに其の時代の立つに随つて、終にアダムよりイーブが別に成り、傳兵衛よりお俊が離れ、陰陽茲ゞ分れて男女の兩性當然として別人間とは成りたりと云ふ。

吾人は未だ全く此の想像説を信ずると能わず、然れども何さま男女が元と一躰ありし歟と思はるゝの證據は、歴々として

現に吾々の肉躰内に存するを見れば、此の想像說も悉く無緣の空論とは見做し難し。思ふに、假令ひ男女は元と一躰なりしにはあらずとするも、又假令ひ其一躰の者が段々に別に成りしにはあらずとするも、然れども現に今日、男性に女性の特質を存し、女性に男性の特質を存し、雙方大ひに相違するの傍はら、亦大ひに相似たる異樣の器關を存すると甚はだ明白なるを見れば、少くとも之れ丈けの事は確かに申し得らるべしと信ず、云く。男女すでに性を異にすと云へども、亦其性を同ふせしむるに似たるそれ〴〵の器關を存す、と。

左樣ならば、男女の氣質の相違は、元と多く其の器關の相違よりして起り來れるものなるに(女學雜誌第九十四、五兩號「吾人の意見を明にす」社說二篇を見よ)此の器關の相違に於て尙ほ現に大に相ひ似たる所ろありと云はゞ、其の氣質の相違に於ても亦同じく大ひに相ひ似たる所ろあらん。而して器關の變遷は千年に成つて、氣質の變化は一日に成るの理あるが故に、男女異樣の器關が元に反つて益す相似るに近づくは左樣急に行わるべきにあらずとは申せ、其の異樣の氣質が段々と混同して、遂に益す相近似するに至らんとは左程の年月を要するにあらず。左れば羅馬支那などの歷史に、男子一夜にして女子と爲る、女子一夕にして鬚を生ずなど云へるとは、餘まり法外のラッパとして喫驚するとあれども、男子が女らしくなり、女が男らしくなるとの一事に至つては、吾人之を實際に徵して其の甚はだ多きを見るなり。葢し男の男らしき、女の女らしきは、元と其器關の相違によつて起り、習慣の相違によつて進み、分勞の異なるによつて發達したるものなれども、若し此等の事情を打ち破る丈けの新事情あらば、男にして女たり、女にして男たらんと決して珍らしからずと覺悟ずべし。

之を以て女性は兒を生むの故に心優となるものなれども、敢て兒を産せす又産するとを制限するが故に、終に追々と男子の如くなるもの之れ有り。女性は產兒內治慰樂等のわけによつて其躰力弱く心優しくあるものなれども、敢て此等に頓着せず、尙ほ恐ろしき力役に從事するが故に、終に追々と男子の如くあるもの之れ有り。女性は男子に副ふて陰陽各その勞を分ち、我れ之を慰さめて彼に賴り彼我に慰められて我を保護するを一般の常則と爲せども、女子終身嫁せず、若しくは不幸にして夫となく、敢て之に賴るべきものなきが故に、終に追々と男子の如くなるもの之れ有り。要するに、男女もし各その仕事を別にし、男は所云る男らしき仕事を爲し、女は

亦た女らしき仕事を執り、双方途を別にして其の行く所を異にするときは、即はち男はいよ／＼男らしくなり、女は益す女らしくなり、男女の性更に段々と區別せらるゝに至ると云へども、之に反して物事全く其の裏に出づるときは、即ち彼の憫然なる變性女子變性男子を見るの異變に出であはざるを得ず。」牝鷄の晨したするは、不吉なりや否や頓と明白ならず、然し若し牡鷄なきときは、牝鷄も段々と牡鷄の如くなり行くこと明らかなり。後家の男まさりは、感心すべきや否や、吾人之を知らず、然し若し夫なきときは後家も段々と前夫の如くなり行くや明らかなり。ミス某々女學生の偉丈夫の如くなるは、敬愛すべきものか否や、其邊未だ明白ならず、然し若し良人に嫁して女たるの務めを爲さぬときは、可憐の佳人も段々と女丈夫とは成り行くこと甚だ明白也。」然らば即はち、男が女と爲り易きことあるが如く、女も亦た容易に男と爲り易きものならん、此一事、現實の進化論に照て決して疑ふ可らず。」それ果して然るか、吾人茲に至つて、悚然として懼れ嚴然として大に警戒する所ろのものあるを知る。夫れ人世は分勞に由つて成り立つもの也、分勞に由つて爭ひなく幸福多きを得るもの也、而して男子男性を有し、女子女性を有し、彼れ此れ互ひに相ひ分勞するの、國家の幸福圓滿に大必要なることを確證するもの也。故に願はくは、男子をして永劫に男らしく仕度し、願はくは女子をして永劫に女らしく仕度し、即はち男に男性の仕事を執らせ、女に女性の仕事を執らせ、男女相ひ頼つて、相ひ其の一を欠くことを得ざるの天地に住まはしめんことを懇願す。故に國粹保存の當否は兎も角、吾人は何卒男子の男粹を保存し、女子の女粹を保存し、此の粹の永遠に存するは、猶ほ美なる富士山の天に高く、麗なる琵琶湖の地に深くして、此の大和の大御國に永遠に保存せらるゝが如くならんことを希ふ所ろのもの也。

如此く懇願するが故に、即ち男女交際の甚はだ必要なることを知る也。蓋し分勞は先づ交際によつて成るものと聞けり、ロビンソンクルーソー只だ一人にて孤島の内に在れば、此の豪傑も自づから男女兩性の仕事を兼ねざる可らず、即はち或は獸を獵つて大胆に之を殺ろし、或は鹽加減をして最と優しくも之を料理し、或は時に慷慨悲憤して大の偉男子の如く、或は喃々自づから之を慰さめて温容の佳人の如くならざる可らず。然るに茲に一人以上の仲間を得て初めて其分勞を生じ、更らに女を得ていよ／＼其分勞を分つの地に進まんとす。」交

際によつて物の分勞の初めて起るを知らば、男女兩性の大分勞を爲さしめんとには、先づ此の兩性をして相近づき、相ひ交際せしめざる可らざるを知らん。思ふに彼の後家にして夫あらば、彼れ決して男まさりの男性を伸すを要せず、牝鷄にして其の牡あらば、彼れ決してトキをつくるを要せず、ミス某にして若し適當の良人あらば彼れ亦決して偉丈夫の仕事を兼ね玉ふとを要せざる也。」故に云く、女をして女たらしめんと欲し、男をして男たらしめんと欲せば、先づ之をして相交際せしめよ。

左れば男女交際は男女をしていよ〳〵男女たらしむるものなり、即はち男女をして各々其美質を發達せしむるの効益あるものなり。之を以て、紳士にして女性に交際するものは自づから男らしくなり、佳人にして紳士に接するものは、亦自づから女らしく成る。彼のぐづ〳〵としたる、意氣地なき男子は、未だ女性と交際したるとなきもの也。彼の袴を穿ち肩に風を切るの女學生は、未だ男生と交際したるとなきもの也。彼等にして若し互に相ひ接近し、其の特有の空氣を吹きかけて、以て互ひに相ひ交際せば、男女兩樣の美質双方に發達して、以て陰陽殊別の區畫、いよ〳〵明白たるに至らんとす。

蓋し人は自分の氣性と違つたる朋友に睦み易きものなり、而して人の尤も多く氣性の違つたるは男女あるが故に、男女の相睦み易きは自然の理なり。又た、人は先方の心を懌ばせて其愛を引かんとするものなり、而して其の尤も多く愛を引かんとするの心あるは男女の間だなるが故に、男女の相懌ばせんとするは亦た自然の理あり。斯て相睦み易きの男女にして而して相互ひに懌ばせんとするに當ては、是非とも一方の好む所ろを察して能く之に應じ、己れ先づ其の好氣嫌に適つて以て益すあつく睦み、益す深く懌ばれんとするに至る、是れ亦た自然の常勢ならん。左れば男女の相ひ交際する、男子は女性の好む所ろに應じ、女子は男性の好む所ろに應じ、雙方互ひに其好む所ろに應じて以て其の應ずるが儘に變化しゆくと、喩へば緑葉の虫の青うなり、紅樹の鳥の赤くなるが如し。實に是れ天然の妙工、陰陽雙關の大秘法にして、感ずるに餘まりある者と云ふべし。而して女子が好む所ろは即ち女らしからざるに在り、男子が好む所ろは即ち男らしからざるにあり、彼此れ各その自身に似ざる所ろのものを好むが故に、男女交際は即ち兩性をして各々の美質を發達せしむるの効益を生じ來る。」今ま試みに女性心中の隱微を穿つて、假りに彼

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の方々が如何なる男子を好愛せらるゝかを見るに。御自身は隨分にお世辭が好く、おしやべりも出來るに拘はらず、其好ませらるゝは、無口にして二言なき男子に在り。御自身は隨分に輕々しくして浮たるを好ませ玉へど、其の愛せらるゝは、沈着にして重々しく且信實らしき男子に在り。御自身は隨分に勘定深く、氣が小さく、コセ／＼と仕玉ふに拘はらず、其の好ませらるゝは、大雜パイにして、氣の大きなる、勘定に無頓着なる男子に在り。御自身は隨分に怯れ易く、親しみ易く、時にはベタ／＼と爲し玉ふに拘はらず、其好ませらるゝは、威風凛々、儼乎として堂々たるの偉男子に在り。御自身は隨分に神經質なれども、其好ませらるゝはボンヤリとしたる鷹揚なる男子に在り。御自身は梅骨柳姿、兎角玄德と均しく股の太くなるを嫌はるゝに拘はらず、其好ませらるゝは、ノッペリとしたる爪ざね顔の男子に在らずして、中には大達梅が谷の如きを贔負にせらるゝあり。御自身は隨分に心配性遠慮勝にて、兎角萬事にくよ／＼と氣を屈し、常に穴に入る樣に考へ落ち玉ふとあるに拘はらず、其好ませらるゝは、勇壯大胆、快活豁達、往々無遠慮、法外なるほどの男子に在り。御自身は隨分に委頼心多く、引込思案の多きに拘はらず、其の好ませらるゝは、グヂ／＼したる、ハキ／＼せざる男子に在らず、又た卑屈無氣力の男子に在らずして、即はちグヂ／＼せず、ハキ／＼して、氣力あり卑屈ならざるの男子にて在る也。女性の悅べる所ろ既でに斯の如し、苟くも之に睦みて親愛なる交際を辱ふせんと欲するの男子は、勢ひ其の需めに應じて以て彼れの理想男子と爲らんとを欲す。於此乎、玆に偉男子あり、偉丈夫あり、大胆不敵、剛毅勇敢の快男子あるに至るもの也。」而して彼等が好愛する所ろの佳人は則はち、全く之に反對の氣性を具ふる所のものなるべきが故に、女性御自身は亦た彼等が理想する所ろの優美温貞なる佳人たらんとを欲せらるゝなるべし。

此故に若し男女を引離つときは、男女双方に於て各自に男女を製造すべし。折助部屋とは男性のみの集り場所なりしと聞けり、然れども玆には無數の暴くれ男と無數の意氣地なし男とを生じたり、言を換ゆれば男性の境内別に一種の男女を生出したるもの也。而して彼の御殿女中の仲間は、啻に女性一種の集り場所たりしに拘はらず、其内には中々に性の惡るき岩藤どの澤山に在りしと承はる、即はち是れ女性の境内に幾多の男子を生じたるもの也。是れ豈に世上の正數ならんや。苟

くも人世に陰陽の分勞わらんとを必要とせば、即ち男子は宜しく男たるべく、女子は須らく女たるべし、而して女をして女子たらしめ、男をして男子たらしめんとせば、即ち男女交際の大淘汰を受くるにあらずんば能はず、之を受けて而して後ち男女兩性いよ〳〵判然と分れ、兩性の美質いよ〳〵判然と現はれ、其の美質の發達いよ〳〵判然として著るしからんとす。」左れば男女交際は第二の造化なり、之に由て陰陽分かる。男女交際は芝居の役割也、之に由て剛柔現はる。男女交際は立志篇あり女大學なり、之に由て佳人を生じ、偉男子を生ず。

論説

○日本現今之婦人

伊勢時雄 述　佃與二郎筆記

左は客月北部婦人矯風會に於て伊勢君の演説せられたるを佃君が筆記せられし者なり。

私は是より五回以前のお集りに矢張此會堂に於てお話し申上げたとがわります而して其時お話し申上げました題も今日のと同じく日本現今の婦人と云ふとで御座いました此回復たお話し申して呉れと云ふとでわりまして如何なとを申しませうかと思て居ました所が演舌者の世話などをなさる姉妹方よりして前にお話し申した續きを述て呉れよとのお頼みがわりましたからこの題にきめました而して前の度のお話は今より幾んど半歳ばかり前のとでわり且つ其時爰にお集りにあつた方〳〵は至て僅かでわつたと思ひますから今日は先づこの前の話しの大要を繰返して而してその續きをお咄し申さうと思ひます。

皆樣も新聞で御覽になつたでわりませうが横濱に近日中に大層大いなる祝會がわる筈で御座います少し延ばしたと云ふとですが遠からず開かるゝでわりませう其祝會の爲めに有志寄附金を募つた所が一萬何千圓と云ふ程の金が集つたと云ふとでわります而して其祝會の爲に一萬何千圓を一晩の内に費して翌日は何も殘らぬ樣にするとで御座います然らばそれに集つた人は如何なる惠に預るかと云へば何れだけ御馳走がわつた所が腹イッパイ食ふより其以上に食ふとは出來ない又何れだけ食つても一晩腹の中に溜つて居るだけで三日も四日も持て居るとは出來ない斯う考へて見れば一萬何千圓を一晩の中に費ひやすとは甚だ惜しいとであると云ふ感じが起ります此所には明治女學校の生徒方もお出になつて居るとですが今之

を女學校に寄附するとすれば立派の家も出き書籍も求められます今に勝さりて多くの教師も頼まれ凡ての事に學校が整頓するに違ひない願ふに此の一万何千圓を出す所の人々は皆利にさとき人々です其位の事を考へつかない道理はありませぬ然るに何故に此大金を擲て一晩の内に費すかと云ふに抑も此祝會は横濱開港の三十年の祝と云ふとであります横濱開港は舊幕時代の頃でありて當時始めて外國と條約を爲しまして今日はその三十年目であるから今度の横濱の祝はこの事の紀念會です斯く考へて見れば實に祝はざるを得ない譯であります其の頃の事は皆樣も書によりて御覽になれば分りますが其初めに外國より申した言葉に先づ假りに條約してアナタの國に害がある樣なれば何何時廢めても可いではないか兎に角通信貿易をして見なければ其事の利害は分るまいと云ふて誠に分り易く說き聞かせました而して我國の人々が思ひますには若し彼が言ふ通りしなければ此の國を外國に取られるであらう或は又其通りにすれば騙されて國を取られるであらうしとて國中の人が皆心配したのであります然るに此條約よりして文明開化の新日本が出來ました今日とあつて見れば横濱開港は即ち新日本の誕生日でありました今度横濱の人々は新日本の誕生日を祝ふのです一万何千圓も何の惜しきことがありますか實に不思議の國で二千年の間世界の胎内に宿つて居つてまだ宇宙に生れずして此世界には如何なる國があるか何處に文明の國があるかと云ふとを知らずに居ましたが僅かに三十年前に此世に生れ出て三十年の後に今日の日本の社會と云ふものが出來ました。

今試みに舊き日本と新らしき日本とを比較すれば實に三十年間變化の著しきと驚くに耐えたるとで恐らく前二千餘年間の變化よりも此三十年間に變つたことが多いと云つてもよひ位ゐでありませう私共のからだから我國の風景までも變りました私共のからだの中に如何ある分子が這入つて居るかと云ふに牛肉や牛乳や羊肉や今日まで我邦の人の食ふたとのないものを食ふて我々は生活して居ります又三十年前にありて我々の親兄弟の中に髭を生して居れば之を奇人と思ひました今日では髭の無いのが恥辱だ髭がなければ威光が無いとか云ふ樣になりました若し三十年前の姉妹方を見れば二十歳を超へて齒の白きは恥辱であつた假令婚禮を仕ないでも二十歳を超ゆれば齒を染るとであつたが今日は八十にもなつたお祖母樣が態々齒を白くすると云ふまでに變化しました又三十年前の人

人の髪を見ればサカヤキと云ふて天窓を剃りまして其上に髷を結んで居ましたが今日では其樣な人は殆んど一人もありませんソレばかりでなく天然の風景までも替つて來て云はゞ山なども低くなると云ふ譯です數千年の間依然として居たものが三千年間に低くなつたと云ふ譯はと云へば例へば箱根の山にも隧道が出來まして昔しは八里の箱根の山越しと云ふて人々籠に乗らなければ通られぬ處を今では何分間に抜けて行くと云ふ樣になり行ましたこれから又追々に開け行きましたら夏になつて富士山に登るにも山の山腹まで鐵道を敷いて數多時間に富士山に登つて歸ると云ふ樣になりませう海上不思議の聲をして鯨の如く黒く大なるものが浮ぶ是れ二十六時間で神戸まで行くと云ふ蒸氣船で三十年前の人は始めて見て鯨と思ひました言はゞ日本國が狹くなり日本國の山が低くなつたのです又我々の命が長くなつて三百年間の仕事を三十年ですることが出きます。

此の如く舊日本と新日本との區別があつて其區別は僅か三十年の間に成就したものであります今日の變化は私共に執て宜しいとか惡るいとか私共は學問した事を後悔するか私共は髮を切たことを後悔するか先づ髭の如きは有ッても無ッても宜しいが牛肉を食ひ洋服を着或は西洋風の家に住み又蒸氣船や鐵道に乘りその他外交の一事より此三十年間に私共に來したる所の利益と云ふものは我日本人民にとつて實に大なる恩澤と云はなければなりません其誕生日を祝ふなれば御尤もの次第で我々も金でも持て居れば幾分か加へたい位で毎年祝ッても宜しひことであります。

然るに私共此大なる變化の中に一ッ不思議に思ふのハ其變化と云ふものは我國の半分の變化で全躰の變化では無い三千八百万の變化で無くして千八百万人の變化です改進の風に吹かれ自ら改進せし所のものは僅か我國の男子だけて女子たるもの我々の姉妹たる所のものは三十年間改進の風にあたらずして居ッた因習の久しき無理ではなひが喩へば夏の夕方になり御主人は洗ひたての浴衣を着て煙草盆を携へ椽側に出て新聞を持て來い團扇を持て來い座蒲團を持てこい小供か八釜しいと叱ッて居る家の妻君は何んなことをして居るかと云ふに下婢どんと區別の出きぬ程に汗染みたる着物をきて臺所で後仕舞をして居る摺盆を洗ッたりお釜を洗ッたり小兒の食散した茶碗を洗ッたり板間を拭ひたりハシリを洗ッたりして居る一方の人を見れば誠に愉快で冷しさうであるが一方の人を見れば

誠に苦しそうで熱つそうに見ゆる丁度この如くして智識の上にも我姉妹方ハ三十年の間改進の風に吹かれたことなくたゞその音だけ聞て居りました。

近頃まで一般にソレデ宜しいと思ふて居つた西洋の婦人ハ智識があるけれども横着である日本の婦人は智識ハ無いが從順である西洋の横着と日本の從順とを比較すれば日本の方が勝ると云ふので濟んで居ました所が一ツ吃驚したことがある嘗て私か或書を讀みましたに三百年程以前に英吉利から南亞米利加などに航海して山から金を掘出すとか新たに島を發見するとか云ふとが盛んに行はれ危險を冒して乘出して行くものが澤山あつた其時分或人が出かけて往た所が南亞米利加の山林の中で一人の白人種の婦人に逢つた實は英吉利から出かけた或る船將の子であつたとのことですが色の黒ろき土人ハ之を見て神と思ひました而して其婦人も賢くあつたから或る一種族の頭領となつて居りましたソシテ遂に英吉利から往つた人に逢ふて共に英吉利に歸りましたが其船中で婦人の帽子のあるを取り之を冠り人々に向ひ「ミイ、イングリツシ」私を、英吉利人であるかと申したと云ふとを讀みましたが僅かに帽子を冠つただけで衣服は野蠻風でも足ハ裸跣でも英吉利人に逢いはないと思つて擧めて貰らおうと思ふは大間違である近頃になつて條約を改正すると云ふ譯で日本の法律を改正するとか又は裁判官を養成するとか又ハ海陸軍の兵制を改るの何んの彼んのと改正して橋を架けたり官衙を造つたり立派の洋服を着立派の帽子を冠りたりして得意で歐羅巴人に向つて「ミー、ユーローピヤン」間違ひだらけの語で我を歐羅巴人かと尋ねました歐羅巴人はこの尋ねを受けてマサカ然うではないとも言はれないからハツキリしたる返答をなしませずして兎角に歳月を過す中我々も少しく氣が付いたと見へて能く彼我の有樣を較べて見た所が我々は立派なるヨウロツパ人と思ひしが誤りで右の足には靴を穿いて左には下駄を穿いて居る右は筒袖であるが左りは振り袖右は散髮で左は髷を結つて居る思想も亦た半分〳〵で洋服や洋食でなければならぬと云ひつゝ其邸内には金銀を以て造りたる佛さんや神さんを祭つて居ります外國人が返答に困つたのも一應尤ものと謂ハねばなりませぬ。

ソコデ狼狽を始めまして婦人改良と云ふ事が起りました婦人を改良すと云ふ旨はチト失禮の樣なれども我々の妻や娘も今の樣ではならん借錢しても洋服にしなければならん香物をよ

しにして牛肉を與へよ死んでも「パン」は食べられぬと云ふのに強て牛乳を飲めと姉妹方に勸むる様になりました姉妹方も亦た斯うして居つてはならん牛乳も飲み肉も食ふ靴を穿かふ洋服も着やう何うしても外國の人に負けぬ様に笑われない様にしなければならぬと云ふ考が起りました是れぞ日本婦人の開港の時節で今より三十年前ペルリが浦賀に來りし時と同様で御座ります其時分にはペルリが來たそうだ亞米利加船が見へたそうだと上も下も狼狽さがし只居つてはならぬと云ふので彼ッ地此ッ地と騒ぎました我々の姉妹方は丁度其時の様な有様で而して今日は新日本姉妹方の誕生日であります其で一昨年の頃より頻かに女子改良と云ふ議論が盛んになつて昨年末の女學雜誌を見れば日本國中矯風會じやの禁酒會じやのとて種々様々の婦人方の會合が出來たと二百程あります實に今日は婦人會と女學校の繁昌の時であります婦人の為の事業又婦人の事業を擴張すると云ふが今日の日本の輿論となりました而して其事業を擴張するに就いては我々は如何なる時代に住んで居るか我々の姉妹は如何なる地位に居るかと云ふとを考へるが必要であらうと思ひます。(未完)

Beauty through my Senses stole; I yielded myself to the Perfect Whole.
Emerson

批評

(73) 藪の鶯　(中本一册(百十頁)定價三十五錢 發兌所東京本町三丁目 金港堂)

此書は花圃女史と號する田邊龍子(田邊元老院議官令孃)が手よ成れる今様の小説なり。趣向は交際踏舞西洋流行熱の弊害を戒しめ貞雅温優の女德を賞する德義上の觀念に原づく文章は優美流暢にして時に慷慨悲壯の語氣あり各章の結末つねに輕妙にして天眞の才氣覆はんとして覆ふ可らざるの味ひあり特に第六回女學生會話の一章は殆んど是れ○○女學校舍內の大寫眞にして穿ち得て妙、第八回 篠原勤の西洋論は痛切にして快を極む堂々として妙齡女生の見識に發するとは思はれざるほどなり。要するに吾人は之を一讀して先づ女史の才筆に感じ次に其觀念の高潔なるに服し再讀此書は決して或人等の言へる如き助筆の之なきものなりと確信して彌よ女史に望む所ろ多し而して吾人が之に要むる所ろのものは即ち歌子女博士と感を同ふするもの也云く、

やぶがくれ鳴く鶯や品高き花にうつらん事な忘れぞ

蓋しダブレーの小説佳ならざるにあらず然れども女史もし其才を高尚の方に發せば更らに可ならんゼヲヂエリヲット女史の小説には君その道念の高きを學べマダムデスタールの小説

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

には君その自由正氣の熾んなるを學べ今の時に於て若し一種の實穿的小説家として終るあらば君既にその天の賜を滅すと云ふべし君が尊嚴君が亡兄恐らく幽明の兩界よりして共ゞ大ひに君に望む所の者あらん。第八回篠原勤の談話に云く、

成程僕の心事は一變した歐洲に遊歴して見ると中々こゝで想像して書籍中にもとめたとは大に違つた所ろがある實に豁然通悟したところがあつてなんでも人間は道德が大事だと云ふことに氣がついた。

又第六回服部孃の作文の辭に云く、

聖賢の教へも得手勝手に取なして閒時は身を亂だすこともあるべしいやしき賤が小歌も心をとめて閒時はをしへにならざるはなしげに其の地にあらざれば是を植うれども牛ぜず其人にあらざれば是を語れども聞ねず……。

實に是のみ、實に是のみ。

(74)

泰西奇談

一名、女房持虎の卷　（中本一册（卅一頁）定價八錢　發兌所東京日吉町盛進舍）

此書はシェークスピア著ぜ、グーミング、チブ、ぜ、カぜラインー卷をチャールスラム氏が抄錄したるものに付き叢菊野史と號する仁田桂二郎氏が大意を譯述わりたるもの也、原本の良否は固より言ふべきにあらず玆に只だ其譯文を見るに中々流暢に且つ面白く出來たり但し大凡そ此書を讀まんものは先づ譯者が自叙の文中、

夫が妻を御するも長官が屬吏を御するも將軍が兵卒を御するも皆な機智なくんば能へざる也彼の牛馬の如き者さへも制馭其の術を得ざれば之を韁つと雖ども我意に從へず況んや人をや……。

と云へるに着眼し、次に第三回機智の勝利の段、

平氏は其日は馬氏の家に行くとを止めけるが其後姫が全く服從して平氏の言ふたるとには何によらず厭く同意し縱令ひ白を黑と言ひ圓を四角と言ふ共「御尤も至極御意の通り」と言ふて逆わざる樣ゞなりたれば漸く姫を連れ馬氏の家へ趣きけり已にして其の途に着くや平氏ハ太陽の輝くを見て「なんと月か萮く輝くではないか」と言ひしかば姫ハ「あれハ月ではありません太陽ですと」と言ふたるばかりにて平氏ハ引き回へして中途より歸らんとし「あれハ太陽なりとも月なりとも又た外の何なりとも余が勝手の者也」と言ひ馬轡を旋さんとせり姫ハ最早「ヲテンバ姫」にあらずして柔和なる妻と變性しければ急き「折角これまで參りたれば何卒前に行き申し度存じますあれハ太陽なりとも月なりとも又た何なりとも君の御好の者です若し君があれを蠟燭だと御思いなら妾へ此より脊つてあれを蠟燭と申しませう」と云ふ平氏ハ尙ほ之を試みばやと思ひ言ひけるは「余はあれは月なりと曰しなり」と姫ハ急ぎ之に調子を合せ答へけるは「なる程あれハ月に相違ありません」と平氏ハ又之を咎め「君ハなぜ此く虛言を吐くかあれは太陽だ」と曰ふ姫ハ急ぎ答へて「左樣で御座いますあれは太陽です併し若し君が太陽にあらずと御言ひなら太陽ではありません只だ君の隨意に名づけ玉ふ通りの者です君があれを行燈だと御言ひなら行燈に相違ありませんと云ふ。

と云へるに注意すべし。此書元來シャレに成るものにして本氣の趣向にあらず若し女權同等の眼こを以て之を堂々と批判せんには固より是れ沙汰の限りとなるべし。

○婦人奬勵、婦人改良

此の二文字に關する吾人の答辨は女學雜誌第百十三號に載せたり。經濟記者は去土曜日發兌の經濟雜誌に右の答辨を拔抄して且つ又々不思議にも理窟を揑造さる、記者の兎に角弱わらざるは不審千萬の事也。其理窟に云く、

女學記者改良せざる可らずと云ふ文字に就ても記者辨明する所ありと雖も是は記者少々弱點を示したるを以て余輩ハ敢て痛詰するを欲せず、

決して御遠慮に及ばず斯ては分り申さず明白に其所以を示さ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れたし。又云く

更に其後に進みて其言ふ所を聞くに記者は改頁とはヨクするとの意味なり婦人をヨクすると云ふも何の差支あらんと述べたり斯くまで熱心に此等の文字を用ひたくは宜しく御勝手に之を用ふべし然しながら余輩は記者の日本婦人を見ると少々奇異なるとを思はざるべからず吾人は吾人と同等なるものを改頁若しくは奬勵するを得ず然るに記者は同等と云ひ乍ら之を改頁奬勵せんとせり。

記者はナゼ斯う分り玉ハぬか實に驚き入る也、吾人が申したる同等とは人間として同等と云ふの義なり同等の人間なりとも智識の足らぬものは之を敎育せざる可らず不案內の人々は之を敎育せざる可らず無頓着のお方は之を奬勵せざる可らず宜しからざる面々は之を改頁しヨクせざる可らず而して之を敎育し敎導し奬勵し改頁せんとすと云ふとも敢て先樣を無生物に見たるに非ず又人間あらぬ不同等の動物と見下たるにはあらず此邊チト敎師と子弟と先覺と俗人との關係を見玉へ。

又云く、

殊に之のみにあらざるなり記者が婦人に就いて一科の學問を立てんと欲するの語を聞けば記者の婦人に於けるは恰もニウトンの其林檎に於けるダルウインの其兎に於ける如く研究の一物躰たるべし研究の物躰は則ち頁半君 Beter half なりと余輩未だ之を聞かざるなり恐らくは不頁半君 Worse half ならんか。

研究の物躰は頁半君にあらぬとは何の意か少しも分り申さず日本の婦女子を概評して能く男子の頁半たりや否やと問へば吾人は殘念ながら未だしと云ふべし左れば平生斯く迄に大呼して論述するとなりとは申せ夫は別問題也。彼の研究の物躰とするが故に頁半君ならずとは一躰何等の意味に候か近來は英雄豪傑詩人君子などの性情をスタデーすると尤も行はる是等も亦た彼輩を輕蔑するとに候か。」兎角コンナ詰らぬ御詰問あらば向後最早御答へは致さじと存ず。

○女學の解と、經濟輿論の兩記者

女學の解に至ては吾人一層に熱心なり經濟記者希はくは終局に至るまで熱心なれ。記者は同前の號に於て吾人を詰り女學雜誌第百十三號の答辨に「吾人と輿論記者と二つの者固より討論の致し樣なし」と云へるを責めたり然し之はモ一度同號を能く御覽あらば明白に分らん、輿論記者は一と通りの用ひ方に付て答へ吾人は吾々同志者の意見を答ふと申す普通特別の二字何も奇代の事は候まじ。

然し此等の事は全く枝葉也吾人は今迄經濟輿論兩記者の懸合を拜聽したるが是よりは吾人兩記者に向つて質問せざる可らざるの運びと爲れり。則ち先づ經濟記者に問はん、

記者は最初「然し女學と云へる文字は餘程新規也若し女學と云へるものあらば余輩は男學靑年學老人學者盜學なども有べき筈なり」と云るに對し吾人が「女學の解」に於て答臣たる論辨には感服せしなるか否や、元來新規と云へる丈けの不審ならば之にて感服すべき筈也何んとなれば進化論も引力說も當時ミナ新規なりしゆへ也、夫とも何か疑がひあらば明白に申されよ。

但し記者は「女學ある事」を疑はれし樣なり然らば眞正面より吾人に感服もしくは答論さるべき筈也。

次に輿論記者に問はん、輿論新誌第二百四十六號經濟記者に問ふの文中、

經濟記者は女學は一科の學問なりと云ふ女學記者の說には服せざるも（吾輩も亦服せず）吾輩の……と云ふ解には異議なき乎云々、此の吾輩も亦服せずとはドコに服せざるとなる乎明白に申されたし盖し此邊を明らかにせざれば記者と吾人と何かナレ合ひし様に思ふ經濟記者の邪推を散ずる能はず。

但し記者は「女學の文字用ひ方」に付て疑へれし様なり若しも只だ文字論ならば兼て民友記者のお叱りもありかた〴〵詰らぬよゆへ止めにしたし。

要するに苟くも女學あるの必要、女學なるもの丶成立に付て疑ふ者あらば吾人は何人よ對しても之を論答するとを猶豫せざるべし。

○近時の女學論

(一)。國民之友第二十四號「社交上に於る婦人の勢力」一篇は立派に出來たり。大意に云く、

日本に於て婦人の勢力小なりと云ふ事は婦人が社交上に於る勢力の小なる事にして泰西諸國に於て婦人の勢力大なりと云ふ事は婦人が社交上に於ける勢力の大なるを云ふ事なり。社會上の最も美妙なる事業は多く婦人社交上の感化より來る。若し我邦の婦人にして泰西婦人の如く社交上に其勢力を振はんと欲せば泰西婦人の如く八面玲瓏何人に接しても話の種に窮すると無からん事を勸めざる可らず。故に社交上の勢力を得んと欲せば千差万別の人と交際して差支無き程の智識を備へざる可らず女子の智識は深きを貴ばずして廣きを尊ぶ既に廣ければ其淺薄なるは素より憂ふるに足らず何となれば其智識なるものは多くは社交上の資本たれば也我邦婦人にして此の資本を備るの日は即ち我邦婦人の社交上に勢力を揮ふの日なり徒らに男子を相手よして愚痴を溢すが如きは決して女權擴張の得策にあらざる也。

然し此議論は「社交上に於ける婦人の勢力」より立論し以て女子教育に對する其注文を申したりと見よ盖し婦人の勢力は社交上にのみ存するものにあらず又此の一方にのみ多く存せしむべきにあらざれば也。

(二)。羅馬字雜誌去十日發兌の分に鳩山博士が高等女學校に於て演述されたるもの丶筆記「御婦人方の心得」一篇を載す。其の大意に云く、

日本の婦人は其權未だ盛んならずと云へども支那朝鮮の婦人に比ぶれば大にまさる所ろあり。然し固より未だ足らざる所ろ多し、只だ之より占むべきものは決して男女同權にはあらず、即はち男子のフレンド、親友と爲るに在り。而して男子の親友と爲には先づ一と通りの學問をして能く男子にシムパサイズするとの出來るように成るに在り云々。

是れ固より其の大意の大略也。而して其御主旨に至つては吾人實に賛成する所也。

(三)。讀賣新聞が曾て片輪女と題せる社説二篇を掲げ、

夫れ美人は一身の品行を紊し一家の滅亡を來すのみならず城をも傾け國をも傾むくる者なりと昔より傳說するに拘はらず美人の賣口は依然宜しくして醜婦は依然人に厭はるゝが如し是れ蓋し男子に多少の美術心ある以上は已を得ざるの事なるべきか、

と云ひしを彼の經濟記者が聞とがめ美人を愛するは美術心あるが故ならずと論じ、著明なる比較表とか申して示されたるものに云く、

清盛は美術心なし　而して美人を愛せり
西行は美術心あり　而して美人を愛する情薄し
師直は美術心なし　而して美人を愛せり
兆殿司は美術心あり　而して美人を愛せず
秀吉は美術心薄し　而して美人を愛せり
雪舟は美術心あり　而して美人を愛せず

然るに再應の掛合によれば經濟記者が美術心と解したるは即ち(Taste for Fine Arts.)なるに讀賣記者が美術心と云へりしは(Taste)即ち嗜好心なりしとの事が分り切角の議論乍ち雪の如く消えたり(否消えなんとす)。然し美術心がテーストありと云ふは少と聞えざるのみか、嗜好心あるゆえ美人を愛すと云ふは餘まり聞えすぎて何の理窟もなし、蓋し嗜好心なうして何物をも愛すると能はざれば也。彼の閻魔が鹽からを嘗めたる如き、鳩が豆鐵砲を喰ひたる如きを好む者あらんに、此の好むも亦た嗜好心とは申し得ざるか。左らば美人を愛するも美術心あるに因る、醜婦を愛するも美術心あるに因る、美術心も亦た厄介者なる哉。

(四)。讀賣新聞は又た六月十三日の社説に「北海道に多妻敎を弘むるの議」一篇を載す。實に驚くべきの議論なり、之を德義上より論じて驚くべきのみにあらず、北海道に人の殖えぬは人が足らぬ故と思はるゝも亦た驚くべきにあらずや。

(五)。日本之時事第三號には「四個の婦人雜誌」と云へる一篇を載す。中々面白きが故に左に拔抄すべし、

婦人敎育の旺盛なる機會に乘じて生れ出でたる婦人の雜誌中、其の重もなるものは女學雜誌、いらつめ、貴女之友、及び日本之女學是れなり」女學雜誌は最も古くして最も老練を氣取れり、然れども其の議論は甚だ活潑剛爽にして、時としては蛾眉を逆立て、白鉢卷をなし、襷を綾取りて、馬上長刀を提ぐる勇婦の如く、甚だ人を喜ばすものあり、蓋し此の記者は、熱心なる耶穌信者なり、故に自ら信ずること甚だ篤し、自ら信ずると甚だ篤し、故に自ら任ずること甚だ高し、既に然り、故にこの雜誌は徹頭徹尾、自信自重の心より來る、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

又愉快なる雜誌なり」紫袖紅帶、金釵玉臂、優麗婉約なる多情の佳人が宛轉たる嬌音を弄して、微妙なるバイオリンを彈ずるが如きものは、是れ豈「いらつめ」ならずや、吾儕發行の一册を見るに、近頃文學世界に頭角を出して、我れこそは此世界の左甚五郎なりといはぬばかりの氣位いあり、其の名匠も、筆力と共に超群なる美妙齋てふ才子の小說及び其のハムレツト、樂譜等あり、編輯も中々に斬拔して一般に趣味あるが如し」貴女之友は親切なる教師の如し、其の議論は着實なり、其文章へ平易なり、其の記事へ小說もしくは他の一二項を除くの外へ、皆實用を主として優美を第二に置けり、故に之を適實に評すれば、「いらつめ」こそ貴女の友といふべく、この雜誌は則ち寧ろ中以下の婦人の友なりと云ふべし」吾儕は日本之女學を評するを好まず、何んとなれば該雜誌は我が日本之時事と、全く同一の博文館より生れ出つるものなればなり、併しながら吾儕は此雜誌の編輯の甚だ雜駁なるを知る、然れども此の雜駁等は讀者の最も喜ぶ所なりと云へり、蓋し日本の女學へ、其の價の廉なるを以て、其の一德と爲すものゝ如し」之を要するに女學雜誌は心膽剛勁なる老母なり、「いらつめ」は窈窕婀娜なる美人なり、貴女の友は周密懇到なる細君なり、日本之女學は甲斐々々しく働らかんとする忠婢なり、必要なる人には必要なりといはんのみ。

叢話

○先妣を懷ふ

佛蘭西の歷史家ミチエレツト、女權未だ伸ざる時、嘗て僧侶婦人及び家族と云へる一書を著わし、其序文に記るして云く、

余は此書を著はす間だに、常に一人の婦人を余が心中に懷き居りたり。而して其の婦人の强き確かなる心は此等の論爭を爲す間だに常に余を助け玉へり。蓋し余は三十年前、即ち當時尙ほ一小兒たるの折り、此婦人を失なひたり。然れども彼夫人は永久に余が記憶の中に生存して、年又年いつも余に伴隨し玉ふ。

夫人は貧賤の間余と共に困厄し、而して今まの好運を余と共に分ち玉ふとなし。余れ若き時夫人を悲しませ、今まは則ち之を慰さむること能はず。夫人逝くとき余れ貧にして埋葬の地を求むる能はず今其の玉骨の何處に在るを知らず然れども余れ甚だ多く夫人の賜ものを受たり。余は深く余が女子の子たることを感ず。故に余が容貌身態の事は固より之を言はず、余が思想言語の中に於てだも、尙ほ常に斷えず余が一身よ夫人あるを見る。過去たる時代に向つて、情を起させ、過逝たる人々に向つて、優しき記憶を起さするものは、皆是れ夫人即はち余が母の血なり。

余年漸く老ひんとす、何を以てわが母許多の惠みに報ひん。たゞあり此の一つ、夫人盖し之に向つて或は喜び玉ふあらんか、たゞあり此の一つ、即はち婦女子及び母親の爲めにする此の論爭、是れ也。

○先夫人を懷ふ

ジヨン、スチウワート、ミルは英國近代の哲學者なり。嘗て自由之理を著わし、其序文に記るして云く、

君は余が著作中最良なる者の勵まし手にして亦た半ば其の

記者たり。君は余が親友にして亦た細君たり、その眞理正道に對する高尚なる感覺は、余に於ける最强の勸勵と爲り、其の稱譽は、余に於ける最重の褒美と爲れり。而して君すでに逝けり、余之を愛想し、痛哭し、則ち此の書を獻じて紀念と爲す。

又た、アビグノンに建たる前夫人の墓石に、銘して云く、

ジョン、スチウワート、ミルの最も親愛したる深く歎悲されたる夫人ハルリエットミル氏の紀念の爲に斯石を建つ。君が大ひある且つ愛深き情、君が貴とき靈魂、君が明亮ある有力なる闊大なる創見に富める智力、は大凡そ君に屬するの幸福を得たるものゝ凡べてを、案内し、扶持し、敎喩し、感化したり。君は、其周邊の人々に對して大氣に且つ情深く、亦た公共の善事に熱心なりしが故に、君が感化は、當代の大ひある改良の凡べてに於て感ぜられ、又た當に來るべき後來の改良に於ても、感ぜられんとす。世上もし、君の如き情、君の如き智を有つ所のもの僅かに存するあらば、世は既でに佇望したる天と爲りたるもの也。君は、生殘れる者供に償はれ難きの大損害を遺して、一千八百五十八年十一月三日、アビグノンに於て卒す。

○空氣の話　(其二)

(衛生局長)長與專齋述
佃與二郎記

子供が少し大きくありて自在に動くとが出きる樣になれば自分で空氣の需用を妨げ危害を招く樣なとが度々有ります夜具を顏から頭まで被て寒夜など風の來ない樣に致したり又臆病なる兒童は夜分「オバケ」を怖て夜具を頭上に被りて顏をかくすなどは隨分少なからざる惡習慣にて睡眠中空氣の分量の不足なると其性質の不良なるとにて睡りも穩かならず恐ろしき夢に魔はれ惱み苦しみて目覺て後いたく疲勞を感ずるもの多し元來小供は生活の隆んあるもので目覺の時は機嫌もよく活潑なる筈の者だが此習慣の爲めに疲勞を覺え日を經る後には眞に其神經衰弱して頭痛腦病其他いろ〳〵の神經病を發し終身虛弱なる人となること多し子供の夜る寐るとに就ては母親となる所のアナタ方が能く御注意がないと何んでも無いことより恐しき習慣をこしらへ年をとつては容易に改りませぬこれは空氣の大切なることを思はぬより起ることであります。怖いとか寒いとか云て夜具を被る其外又子供が遊戯する時に空氣の必要を忘れ先方の小供に蒲團をかぶせ或は之を仆して藁を掩ひ枯草を被せ多勢集りて一人を埋込み上からおさへて下では動くことのならぬ樣にし又は手の掌或は手拭着物の袖

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

などを以て他童の息を窒め苦しがらせて樂しむが如き惡戲をなすことがあります其爲めに僅かの間に顏色も變り氣絶して大騷ぎとなることあり薄弱なる小供あれば其爲めに色々の病氣を引出すこともあります渾て斯かることは空氣の必要を知りません故に起ることで親も知らず子供も識らず遂に健康を害する如き結果に至ります此等は婦人自躰の衛生ではありませんが子供を育てるといふは婦人第一の役目でありますから能く御承知にあつて其子供にも能くおしえさとし空氣の要用を知らしてお遣りにあることは婦人方の御職分と思ひます。

通常大人の一日に呼吸する爲めに必要ある空氣の分量は晝夜即ち二十四時間に三百五十立方尺にて其重さ二貫三百三十目位であります之を一年に積算すれば二十二萬七千七百五十立方尺重さ八百三十九貫五百目となります（先づ大層のものと御承知にあれば宜しい）斯く澤山の空氣を吸はなければ生活を健康にして朝夕無事で居ることは出きません若しツレ丈の分量を吸ふことが出きませんければ重き時は死し輕くても病氣になります是れで空氣の一寸の間も無ければならぬと云ふの大略はお分りになりましたらう。

今申した通り空氣の分量が十分でなければ健康を保つことが出來ぬのみならず空氣の性質が良くなければあらぬ若し清淨ならざる空氣を永く吸へば次第に病氣となります元來空氣は酸素窒素炭素と此三ツの原素より出來たるものにて其中に重なる必要品は酸素にて酸素か無ければ人の生活は出來ません酸素はツレ程大切の者だが至て性の劇しきものにて窒素を四倍ほども加へて恰強き燒酎に水を交ぜ苦き藥に砂糖を加るが如く調合して人の呼吸に適當する樣にいたしてあります其割合は、

酸素	二〇、九九
窒素	七八、九八
炭酸	〇、〇三

是れが空氣の重なる成分でありますが倘ほ此外に幾分の水蒸氣を含て居らなければあらぬ餘り空氣か乾き過ぎれば宜しくない併し其成分には別に關係はありません此割合か揃はあければ清淨なる空氣とは云はれません此割合に酸素が勝つと云ふとはありませんか炭酸か勝ち過ぎれば大層毒にある甚だしきに至ては生命を奪う程のものであり升。

酸素は今申上げた通り性の酷烈なる物だから其儘で吸ふてはたまりませんから窒素を四倍程も調和して吸ふのですが之を

汚がすものがあります即ち炭酸瓦斯と云ふもので前にも申す通り一万中の三位は通常這入て居る亦此位の少量は却て必要で免れぬものだが窒素や酸素の調合あしに此瓦斯を吸へば大層毒のもので既に一万分中の三と云ふ度を超え一万分中の十即ち千分中の一といふ程にあれば最早呼吸するの空氣にはなりません舊と日本の家は開豁で障子の造り方抔も自然に空氣の流通に適して居りましたが近來はガラス障子あどが流行して雨戸の內にガラス障子があり至て暖ではありますが其の代り空氣の流通は甚たあしくなり其中で火鉢を置て炭火をくべますから久しく其間に居れば頭が重くなりフラ／＼する樣になり万一其儘に寢込みなどすれば窒息して死ぬ樣などもあります何時か新聞にもあつたと思ひますが屋根船で雪見をした通人が按火にあたつて寢て死んだとか云ふとがありました是れは炭酸に中毒したのです殊に木炭から出る所の炭素といふものは燃ゆる間に空氣中の酸素と交合して炭酸を拵るのであります燃へて火になるには空氣中の酸素を引き炭より炭素を出しますから空氣中の酸素が減じて炭素が殖へます又我々人間は吸息に於て酸素を引入れ呼息に於て炭素を外に出すもので恰人のからだも炭火の燃るのと同じ道理で躰温を保ちますから間內には人なり火鉢あり始終酸素を減じて炭酸を生ずるのみにて周圍はガラス障子唐紙類にて締め切りてありますから室內の空氣は其調合の割合が變じて所謂腐りたる惡き空氣となり之が爲に頭痛眩暈などの諸症を起すことであります。序に御斷しもふしておきますが炭酸は口から吸て肺に入れば大層毒になるが又之を飲んで胃腑に送れば藥になります例へば炭酸曹達に酒石酸を加へたる沸騰酸とかシャンパン酒とか「ビール」「ラムチ」其他の炭酸を含める鑛泉の類は皆多くは多量に炭酸を含み淸涼活潑の美味を有し胃に益になりますとは御注意にならなければありません。(未完)

○殿樣は傲然たり

昔し齊の國に一人の妻と一人の妾を置いた男子あり、歸る時は常も醉飽して歸る、今日は松源で誰々と飲んでヰ、歸りかけると何に遇つてヰ、ツイ又た散財をして仕舞つた。云く煙草盆、云くお茶、云く腰をモメ、云く足袋を取れ、意張り散らして傲然たり。ソコデ或る時あとを尾いて行て見れば、驚くべき哉郭外の墓所に行き、祭る人にたよりて酒食の餘れるを乞ひ口腹の慾を極む。ト是は支那の書物に在り、日本に譯して云へば、世間に出て少しも意氣地なく、家に歸つて辨慶

剛膽愛情

燭暗數行虞氏涙

の如く、外に出てチベッカを使ひ、宅に歸つて叱り散らし、借金山の如く、細君への鼻然も又山の如く、而うして疝氣頭痛心配くよ〱一時に來るもの、之を齊國の醉飽男子とは云ふ也。

妻は評して云く、コンナ事ならば初めから言ふて下されば好いに、又た分別も覺悟もあらうものを、而して細君は夫を慰さめぬと仰しやる、お心が分らないノニ何うして申上ようがありませうぞや。

本欄内には詠歌論のつゞき百人一首一日話等其他掲載すべきもの數項あれども本號は批評のあまり多かりし爲め餘白乏しく爲り次號まで見合すこととなしぬ

小說

○次號よりいよ〱美妙齋主人の新作、さすがに草紙をつゞく〱に載せます。

○小說神髓

蘇格氏著　ケチルヲルス　（第十九回）

扨又トレッセリアンは彼のエーランドに別れてより差す方もなく此處其處と廻り行き端なくラウレー、ブラントなどの御旅待受して相待つ所ろに至りぬ、未だ禮服に着換へざる旅の裝ほひに長靴を穿つて面色且つ快々たれば人々之を奇しみて最と不審がりける然るに時すでに夕方と成れば城外に煌々たる炬火幾百の數を知らずかゝやき渡り最早陛下の御着馬との布令高く聞ゆるにぞ皆々恭しく出でゝ迎へ奉まつる。

謹んで陛下當日の御出で立ちを見てあれば雲の如き臣下あたりを圍む其中に雪よりも白き御衣を召して白馬にまたがり威風凜として見えさせ玉ふの躰大英國萬乘の君としても何とて斯迄に御威光の高うましますやと恐れ多くも思はれ玉ふ、扨其右に扣へたるは當の城主レスター侯金色の衣服あたりに照り純黑のアホ馬に乘つて是又風采侵す可らず此日御招待の主人として陛下の右に列し轡を並べて緩かに歩ませ來る。侯より一段下つてパーチー其のお伴いたしサッセックス侯以下無數の貴族各列を整えて后ろを固ため二百の光明天星の一時に落ちたるが如くあたり目ばゆき迄に見へ渡れり、陛下は人民の好遇斜めならぬを見玉ひて龍顏ことに麗はしく在ますにレスター侯は顏色少しく青く時々首べを下げて物を案ずるの風あり其の后へにはバーチー鷹の如き目を見張つて其都度侯の面てをさしのぞく主從の心中天壤も啻ならずと云へども其の秘くさんとするの難やみは此れ彼れ共に同じ實に憫れむべき

人々あり。
陛下すでに城門近う御着あれば兼て歴史上の人物に擬へたる樣々の作り人出で、御迎へを申し上ぐ、第一には人相見の女恭しく出で、陛下を拜し聖德洪大の占なひを捧ぐ、堀には假りの島を浮ませレデー、チフ、レーキの小說に似せて佳人を島上に立たせ自から名乘り出で、陛下を歡迎するの工夫あり、門の兩方に立つたる二王も謹んで陛下を拜し、マイクは大の海豚に乘つて出て御歡びの演說を爲すなんど用意周密趣向奇妙にして大ひに陛下を慰さめ奉れり。

城門に達す、レスター侯先づ入りて案內し參らせ光輝照つて晝の如き新殿に導き奉り親から御手を執つて王座に請じ拜して枉駕の忝じけなきを謝す陛下も亦た有がたき御答へありけり。レスター侯重ねて申すやう御迎ひとして參り路塵に衣服を穢がして候へば暫時御暇を賜はりたう存ずる更らに改めて出仕るべし彼處にトレッセリアン、ラウレーなど侍べつて候へば御氣嫌伺ひ奉るべし暫らく御免下さるようにと申し許を得て別室に引退ぞく。

陛下は御氣に入りのラウレーを近くへ招き玉ひ彼れに居る田舍風の紳士は誰ありやと問はせ玉ふに、ラウレー御答申すようう彼れこそトレッセリアンに候御見忘れ遊ばされてやと伺ふに、全く見忘れたり之に附て思ひ出すは彼の事なりパーチーは何處にありやと問はせ玉ふ、此處に參上して候と申すに、陛下は兩人の有樣をつく〲と見比べ玉ひてトレッセリアンは今日何故よあの樣なる風を致して居るぞ夫に比べては彼のパーチー善くも美しく裝ほひしもの哉へレンがあれを撰みしも全く無理あらずなど笑わせ玉ふ。

時にレスター侯衣服を更めて再び推參す、陛下の仰せに朕は英國の保護者として正當の裁判を爲すべき筈なり兼て申置しパーチーの夫人とやら彼のラブサートの娘めは此れに招き置きし乎、レスター答へ申す曰く故あつて參り居らず候、陛下仰せらるゝに重ねて申置しに何故なるか、パーチー罷り出で推して答ふるよう據ろあく參りがたく千歲の憾み此に過たると候はず何卒此を御覽下さるようにと一書を捧げ出し右は名醫の診斷書にて候かの夫人に同居いたし居るフホスターなるもの今日持參して候、陛下仰せに左樣か致し方なきと也、則いちトレッセリアンを近う招きて、扨てトレッセリアンに白すが朕元より英國に成るべく公明正大の政を行わんと思ふが政治の中に入りがたきものも亦之れ有るぞ即ち婦人の情愛及

び病などは其うちの事あり今ま知る如く斯る診斷書もあり彼の婦人現に病のよし此席にて汝ぢの乞ひに任すると出來ざるに付暫らく相待つべし、と仰せらるトレッセリアンは只今ま八角堂にて現に之に面會したるほどのものを何如に彼等事を惑はすとも賢明なる陛下に對し奉まつり斯る詐僞を申すは不埒の至りとクワット激してラブサートに爲したる契約をも打忘れ斷然として憚かる所なく申すようは、

陛下、恐れ乍ら其の診斷書は眞實の者に候はず。

一座愕然たり。

佳傳

○米國女學校最初設立者　メレイ、ライチン女史

マダムメインテノンの如き、ハンナモアの如き、エムマウイルラルドの如き、カゼリンビーチャの如き、皆な女子敎育に對して功績抜群の女學士なり。左れど此等に優さるとも更らに劣る所ろなき、其の一生の事業の清潔熱心なる、其の信仰の確固不抜なるは、蓋し女傑メレイライチン女史にてあるべし吾人此の頃ろ其傳を讀んで感激に禁へず玆に少さか大畧を記して世上の女生諸君に示す若夫其の細密なる行狀記の如きは他日再たび之を錄するとならんとす。

扨てライチン女史は今を距る凡そ九十二年の昔し一千七百九十七年二月、米國西マッサチウセッツ州内山岳起伏する片田舍の間だに生る。父ア、ロンライチン氏は極めて善良の人にて近邊にても評判の正直者なりしが早く死して母、兄、及び女史の三人を遺す。母子はなはだ貧しく朝夕の暮らしも眞に覺束なかりしが只だ相ひ助けてやう／＼に生計するうち女史十三才の比ろ母は故あつて再び或る家に嫁しぬ。殘るは其の兄と二人なり女史自から縫針ツムギ織物などして兄を助け又余暇あれば少しづゝ學問を致し最と靜かに最と貧しく最と憫れ氣にも暮らし居たる所ろ、春又春を回して女史十八才の比ほひ兄は好緣あつて某と云へる夫人を娶りぬ。左れば女史此の時よりタッタ一人の離れ者と爲り果一週七十五錢の給料及び食物を給せられて或る家の子供の姆兼敎師とは爲りぬ女史素と小學校にて定まつたる僅かの學業を修めたるのみ其外にとては別に人より學びたる所なけれど彼の裁縫紡織の余暇にも常に時を餘まして自から勉學したれば此時先づ／＼人の敎師と爲り得べき程の資格をば既に得たりとは知らる。

斯て姆と爲り且つ敎師と爲り一週七十五錢の給料を受くる中

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

より万事を節して少しづゝ貯金し遂に若干の學資を得てければ之にて何處かの高等學校にて修業したしと思ひ起し遂にサンデルソンアカデミーと云へる學校に入りぬ。然し其の貯金の高もとより只だ僅かの事なれば凡そ右學校に於て一學期即はち三四ヶ月間の稽古を爲す丈けの入費より外に遺す所ろなければ女史が執心も此の僅少なる日月の後ちに伸すべくあらず、左れば日夜非常の勉強にて其の進步驚く斗りなれば同輩の男生は固より敎師の面々も密かに驚歎し居たる折から殘念にも一學期は既でに過たり、女史最早去らざる可らず愁然として窓より外を詠め轉た感慨に堪へず涙を飲んで笈を調ふるとき當校の議員來つて議員會の議決を傳へ月謝金は以後之を免ずべきに付心をきなく卒業まで勉學せらるべしと云ふ。此時女史の喜び如何なりしならん蓋し一生中最大の喜びなりしとは女史が自から申し殘したるの紀念なり然るに月謝金は此都合にて出で來たれ衣食の料とすべきものゝ用意なければ又々端と當惑して大に心配したるがキと心を定めて或る下宿屋に至り自から所有する色々の物品は悉く之を賣拂ひ尙ほ其家に少々の手助けをして先づ〱辛うじて此に下宿するの準備を爲し扨て又た日夜を分たず勉學し夜は大抵四時間の外か眠らず（之は凡べての女生の倣ふべきとにあらず只だ丈夫なる女史にのみ行はれ得たるとなり但し女史亦た早世の不幸を見たり）敎師が嘗てアダムスの羅甸文法書を渡し其の所々を見て置かるべしと申したるに三日にして悉く之を暗誦したりと云へる程なり。

斯くして辛うじて此の學校を卒業すれば女史の名すでに遠近に喧ましくあり所々より之を招いて敎師と爲さんとすれども女女は尙ほ修學の念厭き足らず後ちにはアムヘスト大學の校長と爲りたるヒッチコック氏は其頃ろ既に有名有德の學士なりければ此方に行て更に學を乞はんと欲するの折柄幸ひ其の令夫人が畫を學びたしとの事に付き女史は之に應じて其の藝を敎へ申し乍らヒッチコック氏に就て博物學を學び尙ほ獨學に餘念なかりけり而して其の學力は日に日に上達するに拘はらず甚はだ謙遜にして絕へて驕れるの樣なく嘗て或敎師は女史の學才を聞いて特更らに羅甸文を認め之に送りたるに女史は之を返して何卒英文に直ほされたし妾が之を持てるを見て若しや餘のお方々が妾を實際に出來る學力よりも多くお考への事などありては心苦しく候とは申したり。

（未完）

"Educate the Women, and the men will be educated"

寄書

本號は色々の者に多くの場所を狹ばめられ餘白なきを以て止を得ず當欄を省ききぬ彼れ是れさびしく思召めさんか此度は許し玉へ。

新報

（此欄内自由に轉載するを許す）

○女の雜誌彌よ盛んならんとす

女の雜誌に付ては既でに前號に於ても少々申置たり其中金港堂より發兌する「都の花」は計畫最早大抵成就せるに付遠からず發兌せらると云ふ然し彼の「文」と云へる雜誌夏すでに來れるに未だ出でず余り遲うなつてはとて六月卅日迄に必らず出版し而して後ち都の花に着手あるよし趣向はヲルガン、ピアノの上に載せても相應する風に立派にして交際社會の玉手箱流行社會のお手本たらんとすとか云へり吾人之を占ふに蓋し「いらつめ」を更らに通よしたるものか兎も角文學上に一つの喜びを得るとならん。

○之れと文學の變遷

右に付て思ひ起すは女の雜誌と文學の關係なり彼の慶應義塾同人社共慣義塾關氏の塾等が勢力を得たる比はザットのイットとか自由政体とか申す英學のみが流行し日本の學生は皆な無味枯燥を極めたる文學者なりしが女の教育が盛んに成り女の雜誌が世に出でたる時代より文學の形勢一變したり而して彼のイラツメの如き亦未來の都の花の如きは此の一點に向ふて尤も功能多きものならん。

○國粹保存說

國粹保存說は余り女學社會に披靡せらるゝな何んとなれば今の女學論の仲間には左樣に心配すべきほどの急激論未だ行われて居らざればなり、此際余り國粹保存說を持出さるゝと意外のあともどりを生じます、斯般の事實に心配也。

○赤十字社資本金下賜　日本赤十字社ゟ於ては今般辱くも　聖上　皇后宮より資本金として金十萬圓下賜相成りたりと云ふ。

○御歌所　去六日侍從職中の御歌掛を廢し更に宮内省中に御歌所を設けられ長に高崎正風氏參候ゟ西四辻公業、堀河康隆、富小路敬直、冷泉爲紀、松浦詮、交野時萬、千種有任、綾小路有實、長谷信成諸氏、寄人に間島冬道、黑川眞賴の二氏任せられし由。

○慈善會の收入金　去る四月二十日より三日間上野公園地の華族會館にて開きたる第二回養育院慈善會總收入金へ八千七百九十一圓四十四錢五厘、其中補充品購入代印刷費其他諸費等總支出金三千五百二十一圓四十四錢五厘を差引き殘額五千二百七十圓を去る六日同會長高崎男爵夫人より養育院長澁澤榮一氏へ送附したりと云ふ。

○音樂學校　上野の同學校にて目下養成中の生徒へ來七月を以て卒業するに付き近々男女を問はず二十名の生徒を募集し試驗の上入校せしむるといふ。

○看護婦教授所　東京慈惠醫院の看護婦教養所にて十二名の生徒を募集さる其志願者は九月三十日までに申込むべしと年齡は二十五歲以上三十歲以下の獨身のものなる由。

○東京產婆會　前號に同會設立のと講師の名など揭げしが其規則は二十一個條にて府廳の認可を得互に業務上の利害得失を硏究し且其實驗考案を談話演述して技術の進步を計るとゝし外に產婆會規約十二條を定め又六支部を置き其第一支部は麴町區、赤坂區、四谷區、牛込區、東多摩郡、南豐島郡にて會長瀧野サエ、第二支部は神田區、下谷區、淺草區、南足立郡にて會長原八重、第三支部は日本橋區、京橋區にて會長古矢カマ、第四支部は芝區、麻布區、荏原郡にて會長山田久米、第五支部は小石川區、本鄕區、北豐島郡にて會長河野貞、第六支部は本所區、深川區、南葛飾郡にて會長村松シホ等なり。事務所は內山下町に設置せし由。

○美術協會　去る十六日同總集會を開き議員二十五名を投票改撰せしに最高點は渡邊洪基氏にして何れも從來の人々なるが其中石黑忠悳氏は目下洋行中なるよりその代りとして花房義質氏撰擧せられたりと。

○演藝矯風會の中止　前號ゟ記るせし如く日本演藝矯風會の發會式を去十七日鹿鳴館にて執行せらるべき筈なりしが去る十五日に獨逸皇帝フリードリヒ陛下の崩御あらせられしに付き其筋の達しもあり延會せし由尤も宮中喪三週間を過ぐれば更らに宏大の場所にて一層盛大に執行するとのこと。

○次號へ　橫濱山手二百十二番共立女學校の卒業式は去る十四日に行はれたるが其摸樣は次號に揭ぐべし。

○護國之柢　札幌南三條西二丁目十五番地の北海禁酒會より題號の如き禁酒の雜誌第一號を去四日發兌されたり編輯人は馬場種太郞氏發行人は岩井信六氏にて每月一回の刊行なり北海新開地の人民を幸福に導くに有力の燈明臺ならん。

○大岸きし女　岡山にて有名なる大手饅頭屋の娘大峯きし女（二十三年）は菓子營業稅減額を政府に嘆願せんとて先頃上京したりと云ふ。

○吾妻婦人會と佛教徒の婦人會　群馬縣東群馬郡中條の吾妻婦人會は去三月中の創設にて以來日に盛大に赴き過る二日に其例會を開きしに農蠶最中にもかゝはらず二十餘名參會し修身の演說編物及び通信女學（本社發兌）の家政學の講義をなして會を終へたり目下會員五十名程にて信徒は少なく未信者多分を占め居れり又前橋婦人會と聯絡を通じ會員も追々に加はる樣子而して佛教徒諸氏も本會の如きものを組織し前橋を始めとして高崎藤岡安中等を行るきまわりて熱心に働らき居れり尙ほ教育婦人會なる會合を造りたり併し他山の石又益になるともありとある方より報じ越されぬ。

○磐城國角田の養蠶　磐城角田には本年養蠶傳習所を設ふけて二十名の生徒を養ひ居れり同地の養蠶は大抵家々の細君の擔任にて各地方より多くの婦人入り込み戶々に就いて傳習をなし居る由。

○秋田縣の私生兒　秋田縣下にて昨二十年中出產したる私生兒は五百九十四人にして中生產ハ男兒二百二十九人女兒二百六十六人死產は男兒五十一人女兒四十八人なりしと隨分驚くべき數ならずや。

○福岡の幼稚園　筑前國福岡にて今度幼稚園を新設し去る二日開園式を行ひ安場同縣知事其外朝野の紳士紳商百二三十名臨場し中々盛會なりしと又同園主任保姆は東京師範學校女子部の卒業生大久保かね子なりとのこと。

○大津幼稚園　有志者の計畫ありし江州大津の幼稚園は同地船頭町の舊英語學校の校舍を使用し來七月二日より開園する由。

○飯山婦人矯風會　長野縣下伊那郡飯田婦人矯風會は本年一月以來計畫ありし所愈去月廿七日を以て其第一會を同所荒町田中某氏方に開らき午後一時より來會するもの婦人三十名賛成員男子七名外にロング、エルマ兩氏にて一同着席の上幹事三名の撰擧をなせしに坂本みつ子三羽まち子小室かつ子の三名當撰し次にロング、エルマ兩氏賛成員小笠原弘氏の演說あり了つて茶菓を供し將來の事務を打ち合せ黃昏に至り散會せしと同會の事務所は尾張町一丁目播磨屋方なるよし。

○盛岡婦人矯風會　岩手縣下盛岡にて婦人矯風會を組織され每月第三水曜日を以て通常會を開き演說講談を有名の士に依賴し又互に目的に就いて談話をなす等にて其規則により目的のある處を見れば基督教主義を以て道德を進め社會の弊風を矯め婦人の品位を高ふし酒類烟草其他風俗に有害なるものを禁廢する等略ぼ東京婦人矯風會と同じき樣なり、又同地の古澤富澤外數氏の發起にて禁酒會を設ふけたりと。

○女生徒の營業　青森縣中津輕郡弘前にては同郡長大道寺氏が曾つてより女子に何が實業教育を施さんとの計畫ありて今度同所時敏小學の上級女生徒數十名に養蠶業を習へしめたりと云ふ。

○女子部新設　福島縣尋常師範學校にては今度女子部を設ふけたりしに應募者二十一名あり目下福島町船場小路に寄宿舍を設ふけ規則を嚴酷にし甚へだしき勞働の外食事等は交番に自炊せしむる由。

外報
（同前）

○女醫　英國女醫中の主なるものガルレツト、アンデルソン夫人と云へるハ年々凡そ五萬弗の收入ありと云ふ。

○農夫　デムマークにては女生に農業を教ゆること流行し農場の持主此の女生を預かりて之れ教授することとなれり。

○ベルジウム　同國の大學にても女學生の數追々と增加し其少數は醫學を學び多くは製藥學を學ぶよし同國の新聞紙は其理由を解して之は田舍の醫博士が製藥の事を知れる糾君を尤も切に求るに由ると云ひたり。

○家政學科　米國インヂアナパーヂウ大學に於てはカント夫人家政學の講師と爲りたり。

○魯士亞皇后　同后は固より工女數多を具し玉ふに拘へらず尤も幼き太子皇女等の御服は親から之を仕立て玉ひ尙ほ新らしき帽子などを求め玉ふ折りは常に親から鋏を執つて之を切り直ほし陛下御自身の好みに應ずるよう整へ玉ふと承へる元來陛下は針事に練れてアミ物等は餘程立派なるを造り玉ふとありと申し傳ふ。

○スペイン太后　スペインの皇太后は其の御一家族の樣を寫眞に取らすることを殊の外に好ませらるゝよし此頃の御撮影なりと云ふを或米新聞が許したるを見るに陛下はテーブルの上にて御手づから茶をつがせ玉ふ幼皇一段高き椅子に倚つて之を御聯あり他の二人の皇子は白衣を着けて其傍らに佇立し最と愛らしく見へさせ玉ふの躰なりとぞ。

○皇女クリステアン　英國女王ビクトリア陛下の皇女に當らせ玉ふクリステアン殿下は此頃ろ「看病は女子の職業なり」とゆへる一篇を女子世界と云へる雜誌に投じ玉ひて其中に左の如き辭句を載せらる曰く看病の智識を得るは固より左程に年月を要せず講師の教へ方によりて極めて早く悟り得らるゝとあるべし然ど之を實際に行て老練ならんには固より經驗を要す云々、眞に恐れ多き御辭ばと云ふべし。

小供談

○盲人の物語

ハイ私はお見かけの通り眼が不自由で御坐りまして働が出來ませぬで乞食となり果てました其起を申せば中々長ひとで御坐りますが小供衆が私の樣な者とあられざるやう荒增身の上を白狀致しましよお聞き成つて下されませ元と私は或る町家に生れまして余り澤山の貯もござりませなんだが辛苦を致して働きました甲斐のありまして八十匹の駱駝を飼ふ程の身代とありました其八十匹の駱駝を使ひまして荷物を運びますと隨分餘計の賃錢が取れますから至りて豐かなる身分となりましたが慾には限のなきことで或日右の八十匹の駱駝を牽きまして歸りがけ一人の坊主に逢ひました種々談のうちに坊主の

申しますには玆處より少し離れて一の山がある其山の中に寶の藏があつて其藏を開けると金や銀や珠や杯最と珍敷寶が充ちてあり八十の駱駝に積みて中々積み切れぬ程ありと申しました私はこの話を聞きまして飛立つ計りいら立ちまして先づ一匹の駱駝よ積む丈の寶を和尙樣に上げる程ドーゾ其處へ誘ひ下されと申しました坊三の申しますにはイヤ吾にも四十匹の駱駝を頒ちくれずばなるまいさりとてお前は拙者の敎をうけて不意に多分の寶を得ることゆへ損にはなるまじ如何にやと私は實は自分で全たく其寶を得たき願がありましたなれどそれでは彼が告げまいと思ひましたゆへ彼に一匹を與へまして自分で七十九匹を得んと覺悟を致しましたそれでもまだ惜しくてならぬに四十匹も吾に與へと申します誠に惜くて〱てありませねどモー彼の云ふことを聞かなければ一の寶も得られぬことゆへ實はつらくてたまらねど無理に有難そうな顏を致しまして最速其意に從ひまして右の山に趣き寶の藏を開けて見ますと何はサア金や銀や充ち滿ちて氣も狂ふ程嬉しくなりました最速駱駝に積みましたが私が寶を成る丈多く得たひと云ふ望に引かへて駱駝は相應の荷を負ますと立ち上るものですから致し方なく八十匹の駱駝に積みまして其藏を出ましたが何時の間にやら坊三は一の箱を出しまして懷の中に入れましたそれは何んですかと尋ねましたにこれは香箱であると答へました香箱杯は私は餘り入用で御坐りませんゆへ其儘にして惜しいながらも四十の駱駝を彼の坊三に與へまして自分は四十の駱駝を率きて歸りましたが途中で思へば思ふ程彼の四十匹の駱駝が惜しくなり遂に惡しき心を起しまして欺しても殺しても彼の寶を取り還さんと思ひ立ちまして道を轉じ彼ひ坊三に追ひ付きまして「お見かけ申す所が和尙樣には駱駝杯はお使ひ遊した事のなきと見へ四十の駱駝をお率きなさるは最と苦しげに見受ます私に十匹を頒ち玉はらば少しはお使ひ易からんと申しますと彼の坊三は成る程左樣で御坐りますかお深切のだん有難うござりますとて十匹の駱駄を私にくれました實は殺しても取ふと思ひましたに容易く私にくれました故其甘ひ所につけ込みまして私は駱駝を使ふが職業で御坐ります故百匹の駱駝を使ふも一匹の駱駝を使ふも異りは御坐りませぬ必ずあなたは私に尙十匹の駱駝を與へ玉ふを後に至りてお喜びなさるて御坐りましよと申しましたれば坊三は如何にも左樣尙十匹を上げましよとて私にくれましたから私は今では六十匹の駱駝とそれに積みし寶を持ちました（未完）

廣告

華族女學校士民生徒募集

來九月以降本校下等小學第三級(即最下級)ニ拾五名自餘中小學諸級ニ拾五名合三拾名程缺員可相成ニ付士民ノ女子入學志願ノ向ハ本月中本校ヘ申出テ入學ノ手續等承合スヘシ

明治廿一年六月　華族女學校

生徒募集廣告

來る九月より始まる學年生徒各級幷せて四拾名入塾を許し候に付き志願の諸娘孃は入學試驗期日(七月十、十一日)に先ち校長宛願書御差出しあるべし但し本校一覽は郵税四錢封入監事宛御申込あらば直に發送すべし

明治廿一年六月　横濱山手百七拾八番館　フェリス英和女學校

藪の鶯

春の屋主人閲　福地源一郎氏序　中島歌子跋　花圃女史著

定價　金卅五錢　郵税　金十錢

花圃女史ハ田邊龍子と稱し、年齡二十に足らぬ娘子なるが、夙に才女の聞えありて、曩の日此冊子を綴り、まだ里なれぬ藪鶯の、かたなりなるふし多からんとて、藪の鶯と題し、人もて示されしかば、ろは最と珍けきことゝて、一とわたり閲するに、卷中一個の賢婦、一個の貴女を出だし、賢婦未だ時を得ずして辛く過活し、貴女しきりに當世に馳せ、つひに淫褻の所爲におよび、賢婦やうやく人に知られて、貴女が厭ひたる元そが配偶すべき一個の秀才好男子ゝ嫁し、貴女は浮薄の遊野郎に添ひ一生を誤ることに局を結び、その間に數個の男女を出だし、貴賤老幼賢不肖の行爲を詳にし、又よく當世の人情を盡くし、男子にハ窺ひ知るべきにもあらぬ、婦女の意匠より擧作の細やかなることをも綴り、間々高尙なる議論をくハヘ、看客をして愕然と驚き、反然と省みるところあらしめたり、夫れ近時小説の發刊多しといへども、大かたは男子の老筆に成り、未だ閨秀妙齡の作爲せしものあらず、春の屋大人この冊子を評せられて「只心配いたし候ハ、餘りの御上出來ゆゑ、彼のアーブレー女史が初ての作を、世人に疑ハれ候やうに、御手傳があらずやと御疑ハれ給ハずや云々、」と或はさる事もあらんかし、乞ふ看客努々爾な思し給ひそ、女史ハ常に洋書を學び、傍ら和歌を詠み、又好みて古の物譚、今の小説など讀み居らるれば、是等の作ハさのみ思ひ苦して、他の手傳など得求むべきにあらざるべし、嗚呼近世に類なき最も珍しき著作ゆゑ、四方の花客續々と御購讀を給ひて、御高評の程を希ふになん、

賣捌所

東京本町三丁目　金港堂原亮三郎本店

大坂北久保寺町　金港堂原亮三郎支店

○鈴木弘恭大人著述○小中村淸矩大人評

改正增補 文法口授 全一册●一名和文獨案內 定價十八錢 郵稅四錢

此書は文章家ある鈴木大人が多年諸學校の生徒に和作文を授業せられしを筆記したるものにて曩に出版したる所大に諸校の賞用を得たれば尙亦今般大人に乞ひ改正增補して古人の文章數十篇を卷尾ょ付し或は雅文を俗文に譯し或は漢文を和文に譯したる作例をも擧げたり然れば啻和文のみならず漢文を學ぶ人の和文を漢文に譯するにも大に益あるべし且女學校などに於て和文を學ばんとする生徒諸君の爲めには此に過たる良書なかるべし

●右文法口授は學校敎科用の書籍に適當也とて發兌后一週日を經ざるに既でに成立學舍女子部跡見女學校頌榮女學校並に明治女學校長榮女塾等の敎科書となりたり

船越鼎太郎著

產婦小兒 攝生法 定價十八錢 郵稅四錢

巖本善治編

木村鐙子小傳 定價十錢 郵稅六錢

田口卯吉君結髮沿革附錄○和崎義路君校○巖本善治君跋 渡邊鼎君著

東髮案內 美製小本八十頁細圖入 定價十五錢郵稅四錢也

嘗今東髮流行の折柄其結び方不案內の婦人少からず此書は日本婦人ょ適する東髮二十餘種の結び方を丁寧に敎へ一々細圖を附して親切に案內すれば何如なる僻遠の地に在りて東髮の風を知らざる人々も之に依て容易に自ら試るを得べし特に田口卯吉君の論文東髮會の規則其外をも添へたれば結髮改良に志ある人々は宜く一讀あるべし

中島湘烟女史著

●善惡の岐 定價金五拾錢 繪入美本

●目次○野蠻とも言へ未開とも言へ實に太平の里なるべし○高島田にやの字の娘五分さかやきに無刀の浪士○紅潮端なく上る佳人の面○一樹の名花春動く初○谿間の清流も繁都の泥水なりしを知らずや○雙腕の勇餘す所なく滿腹の智遺す所なし○撫松庵のみ能く撫松庵の胸中を知れり○痴夢情烟春月暗○誰知一滴愛情水散湧奔波激涙來○世上の功名灰塵に異ならず○錢嚢瘦腹裡飢以て天下の經濟を論ず○貧生の慷慨恃に足らす○當路の君子にして袖の下を嫌ふものはあらじ○雙蝶花に戯れて春情あり○歡樂のある處悲愁の伏する處○姉妹の談濃かにして春窓の燭微かなり○怨もなく怒もなきは交りと愛と共に新なるによる○撫松庵が胸邊寒く吹き送る巖間の風ぞ腥し○世難海より深かく人情紙よりも薄すし○會離縁あり應報爭ふべからず○優なる哉水聲人事の齟齬を嘲る○情人の艶話唯閑雲の聞くあるのみ○上帝親なく唯善人に與みす○客窓涙あり孝子の情○茲に因ありて茲ょ果あり○人間の歡樂一場の夢○墜葉翻って力なく懶禽啼て恨あり○地下の白骨土いまだ冷かならず病窓の美人恨愈多し○開花原是落花風○人の死する其言ふとや善し

●賣捌○本社、銀座博聞社、原金港堂

統計局次長世良太一君序○統計協會議員吳文聰君序
通今居士橫山雅男君著

●婚姻論 定價三十五錢 郵稅十四錢

此の書は通今居士橫山雅男君の著にして全編を二十八章に頒ち總論。婚姻の定義。婚姻は人類の天性。婚姻の効力等より說き起し早婚。晚婚。私婚。血族婚。雜婚。一夫一婦の正婚など悉く歐米の統計上より論及し議論正確文章平滑一讀我國舊來蠻風の結婚を改良すべきの必要を感ずるの書なり

發兌 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

弊社雜誌の義は其發行日即ち毎土曜日早朝に悉皆配達に差出し候に付府下の花主諸君にして若し同日夕方までに御受取り無之樣の事有之候得は何卒早速御一報被下度左候得ば日曜日は休業致し居り候得共月曜日には必ず御届け可申候也

●明治女學校教科用書

中村正直先生序
中根淑先生跋

漢文抄讀

中村正直先生閲
木村熊二君編

●卷壹一冊出版
●定價金卅錢
●郵送料八錢
●卷二卷三近刻

泰西の文學我邦に行るゝに及んて〆漢文の美を説く者あしと雖本邦の言語文章其の從來する處漢土の文章によらさるものなし故に邦人の文學に志す者其の楷梯たる漢文を捨て可ならんや茲書概ね敬宇中村先生の採擇する所にして華を摘み實を採り學生諸君をして時を費すと少ふして効を得るとの多きを欲するものなり江湖教育家諸賢幸に愛覽し給へかし

發兌　東京日本橋區通二丁目十三番地　小林新兵衛

尺寸廬主人著

新思奇想　未見世之夢

密書入　西洋綴　定價金五拾錢　郵税金拾錢　郵便切手代用一割増

本書ハ文壇上ノ臥龍鳳雛ト仰カレタル尺寸廬主人其人ノ著述ニシテ雅俗折衷剛柔兼濟ノ妙筆ヲ揮ルヒ一小冊子中ニ千狀萬態七情轉瞬ニ遷リ新意反掌ニ見ハル珍案奇想ヲ以テ包継シ、或ハ貧苦失望死ニ瀕シテ謀ラズ金ヲ得家ヲ興スノ夫婦アリ、汗馬狂奔シテ不思議ニ才士佳人ノ奇遇ヲ媒シ、痴漢情ニ迫テ殺人犯ヲ犯シ、奸雄貞婦ニ懸戀シテ權謀詐術ヲ逞スル者アリ、怒濤一掃ボストンノ秋月ニ母子ノ會合アリ、朝鮮ノ事變米國公使英名ヲ赫シ一品ノ出現樞密院顧問官ノ陰謀發覺ス、半生ノ歎苦ハ終生ノ幸福ト化シ編者夢サメテ筆ヲ止ム

發賣書肆

東京南傳馬町二丁目
大阪本町四丁目
西京三條通柳馬場

辻本尚書堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●心の寫眞　一名嗜好及性質の記錄（全一册價金廿五錢郵稅金八錢）

令孃愛姉諸君よ諸君が其明友の寫眞を收めおき賜ふ事誠によしされ共こは唯其外貌を見るのみにして嗜好及性質等は之を知る事を得ず然るに此書は嗜好及性質に關係ある事柄の問題卅一個を撰み各明友に其答案の記入を請ふものなり故に明友の心中より出づる反射は則ち寫眞となりて見る事を得べし又其側には通常形躰の寫眞を貼るべき欄をも設けたり此書は殊に年若きものに向て興味あるものなれば多くの友達を持ち賜ふ貴女諸君は早く一本を購求して朋友諸君の心意形躰兩種の寫眞を收めたまへ

發賣　靜岡縣靜岡吳服町三丁目　擁萬堂　三浦定吉

書林　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

上州伊香保溫泉宿村松秀茂

これの出湯のひめ方の病ひに効ある事は伊香保風の世々に吹傳へ物聞山の聞きなれたれば更にいはねど往復ふ人の年毎に多くなれるは開けゆく御代の光りの御惠にこそよるなるべけれ然れは年月に建增たる家搆廣きは許多あれど山水の眺望のいと愛らかに見晴たると內外の人々の起臥にも叶ふやうに營み建たるは憚り多き事にあれど我家居に限れる殊に萬の調度ども淸らを盡し都ての御賄は心の限り低廉し蘇比の榛原ねもごろにつかふまつれば此地にゆあみして御身を養ひ賜ふ君は榛名の山より高く伊香保の沼より深きみめぐみもて今年もまた根呂の小松の待つ程たがへず宿らせ賜はむ事を冀ふ

改良　上等牛乳販賣廣告　定價壹合金二錢八厘　五勺金一錢五厘

毎日三合以上御飲用は壹合金二錢五厘の割

弊舍ハ主ノ御恩惠ト御得意各位ノ御引立ニヨリ日增ニ盛大ニ赴キ難有奉謝候依テハ猶一層注意仕前記ノ低價ト速達ヲ以テ廣ク貴需ニ應ズ御飲用ノ上益々御高評アランコヲ

牛乳專業　北豐島郡坂本村　相愛舍

發兌					
四月。	七日	十四日	廿一日、	廿八日	
五月。	五日	十二日	十九日	廿六日	
六月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
七月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	

定價

一册。五錢　郵稅。一錢（但府內無郵稅）

十册。四十八錢郵稅。十錢（同前）

半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢

一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁以上半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行　一回（廿七字詰）　前金拾錢

同　三回以上　一割引

同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は本社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"Jogaku Zasshi."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months; *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町園々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○同本鄉四丁目文壽堂○○横濱住吉町角田晃貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入淨集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年六月廿一日印刷

明治二十一年六月廿三日出版

東京京橋區日吉町八番地

發行所　女學雜誌社

東京京橋區日吉町八番地寄留

編輯兼發行人　巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留

印刷　森田豐

遞信省認可